



ADDRESS VOICE

Vol.53

2022年2月発行

【冬来りなば春遠からじ号】

株式会社アドレス 〒921-8147 金沢市大額1-342-3 《TEL》076-298-8585 《URL》<https://www.adrs.co.jp> 《E-mail》office@adrs.co.jp

早歩きの亀 第7回

「きく」ということ

TTL 制作部 亀村

テープ起こしをしていて常に悩ましいのが、同音異義語の使い分けです。中でも迷うのは「聞く」と「聴く」。どちらを使っても大差ないのですが、ぜひともこだわって使いたいところです。アドレスが用字用法の基準としている『記者ハンドブック』によれば、「聞」は一般用語、「聴」は特別用語で「身を入れてきく」とあります。これでは区別がさっぱりという感じですが、「有権者の声を聞く政治家」と「有権者の声を聴く政治家」だと、後者の方が圧倒的に当選確実でしょう。

違いを考えてみると、やはり漢字は表意文字です。「聴」には「心」の字が含まれています。聴覚として音や声が入ってくるだけの「聞」に対し、「聴」は行為の主体が意識的に「耳を傾けている」のです。例えば「意見を聞く」は、意見を取り入れるかどうかはともかく、声を拾っているだけになります。

しかも「聴」の字には「目」も含まれていますし、私にはその上に付く「十」の字がアンテナのように見えてなりません。テープ起こしと一言で言っても、時には音声からその場の状況を見通す「目」が求められますし、時事用語やバズワードにも「アンテナ」を張る気概を持ちたいものです。アドレス一同、そのように日々研鑽に励みながら皆さまからのご依頼をお待ちしております。

代打の送りバント

ライチョウとの遭遇

営業部 小池

ライチョウという鳥をご存じでしょうか。私は学生時代に登山をしていたときに目の前で見たことがあります。重い荷物を担いでやっとの思いで尾根筋に辿り着いたとき、気がつくとすぐそばに1羽がトコトコ歩いていたのでした。ライチョウは鳩よりも一回り大きく、羽毛に包まれて丸くもっさりしています。この鳥は人間を恐れないので私を警戒している様子もありません。おっ、と気が付きましたが、近寄ると驚かしてしまってもいいと思いつき、そのときは素知らぬ感じでそのまま立ち去りました。

ライチョウは、元々高緯度の寒冷地に生息する種であり、氷河期の折に日本列島の辺りまで生息域を広げ、氷河期が去った際にその一部が2000メートルを超えるような高山域に取り残されたものだそうです。高山でも滅多に見られないためか、山岳信仰の影響か、「神の鳥」とも形容されています。また、この鳥は地球温暖化が進むと絶滅することが確実視されているそうです。今、日本に生息しているのが何かの幸運な巡り合わせのように感じないわけでもありません。

私がかく私的にライチョウとの出会いについて思うのは、幸運にまみえることがいかに稀であるか、ということです。幸運はごく自然にさりげなくやってきて、あっさり去って行き、そして簡単には繰り返さないようです。人によってはときどき目にするそうですが、私はその後あれほど間近にライチョウを見ていません。

ようやくパフォーマンスが7割くらいに復活してきたのですが、昨年10月に右手(利き手)を骨折して以来、左手で歯磨きをすれば顔が動くし、激痛からマウスなんて持てませんし、そもそも机に右手が載らない…。車に乗ってもドアが閉められない、ウインカーが出せない。握力10の右手では文字も書けないといった日常でした。受傷後4カ月、今、できないことは、万歳三唱、エプロンを結ぶ、キッチンの換気扇のスイッチを押すぐらいにまでなりました。

わたし、少し人に優しくできるような人になってもいいかもしれません。車いすの人にも、杖を持っている人にも自然に声がかけられるようになりたい。バリアフリーがうたわれていても、障害が左右に固定している人にとってはまだまだ不完全な施設・設備が多いことを知りました(左の壁にだけ手すりがある階段では、上りは左の手すりを頼れるけれど、下りには手すりが使えない)。手を吊っていると、人混みで向こうからやってくる人に衝突の恐怖を覚えるのです。初めて知ることの何と多いことでしょう。街も人もバリアフリーになあれ。

節分のあと、やはり北陸は容赦できぬとたっぷり雪が積りました。もちろん私は戦力外で、皆の雪かきの逞しさをガラス戸越しに眺めていた今朝なのですが、雪解けのように腕と肩の痛みも去り、市場もとけて、いい回転がやってくることを願う、暦の春です。

ぶくぶく通信

代表取締役 中山 雅美

